

# 米国 Where2.0 レポート 位置情報技術が インターネットサービスを変える!

オライリーメディアが主催するロケーションテクノロジーの会議「Where2.0」が、さる6月29日、30日の2日間にわたって、米国サンフランシスコで開催された。このコンファレンスは「ロケーションテクノロジー(位置情報技術)」をインターネットのコンテンツやサービスにどのように生かすかということがテーマだ。最近、いくつかの新しいロケーションテクノロジーを使ったサイトが登場しているが、今後どのような発展をしていくのだろうか。

瀧口 範子  
フリージャーナリスト

## ロケーションテクノロジーが 次世代の基盤

ここ最近、検索エンジンのグーグルが立て続けに平面、衛星版、3次元で操作できるアースなど数種類のオンライン版マップを発表して、インターネットの地図テクノロジーが急速に注目を集めていた。ロケーションテクノロジーというのはこうした地図だけに限らず、地図に検索、ローカル情報、画像などを組み合わせたテクノロジー、サービス、デバイスなどを総合したコンセプトで、いってみれば今回の会議は、今後インターネットのプラットフォームは地図になるというくらいの意気込みのあるものだった。

参加者は500人以上。地図ソフト会社、通信キャリア、DHLなど宅配サービス会社、新聞や放送などのメディア会社、検索エンジン会社、研究者、データベース会社、米国政府機関関係者などでにぎわった。

いくつかのプレゼンテーションがあった中で、聴衆から最大の喝采を浴びたのは、ポール・ラドマッカーとグレッグ・サデスキーという2人のプログラマーだ。

## 開発者自身の必要性から 生まれたサイト

ラドマッカーは、今年4月に「ハウジングマップス(<http://www.housingmaps.com/>)」というウェブサイトを立ち上げた。これは、地図に空家情報が一体化されているもの。自分が住みたい地域の地図を呼び出すと、そこに現在賃貸可能な空家がピンでプロットされている。一目瞭然にその場所がわかるうえ、そのピンをクリックすると広さや家賃、写真などの詳しい情報が呼び出される。このハウジングマップスの元になっているのは、実はグーグルマップとクレグリストである。後者は、アメリカ全土で使われている地域コミュニティ情報サイトで、空家情報を中心に、モノの売り買い、求人情報など生活全般に役立つとして人気の無料サイトだ。

「ハウジングマップを開発しようと思ったのは、僕自身が必要に迫られていたから」と、ラドマッカーは語る。引っ越し先を探していた彼は、クレグリストに掲載されているテキストの空家情報と地図を別々に見比べる手間が省ければどんな

にいいかと思いついた。地図を第一義的なプラットフォームとして、その上に他のアプリケーションを付加する。「現実的な問題を解決したい」と言うラドマッカーの手にかかってグーグルマップとグレッグリストは合体し、大人気を呼んでいる。

## 「マッシュアップ」が 新サービスのポイント

こうして別々のデータサービスを結びつけるのは「マッシュアップ」と呼ばれ、上記以外にも写真シェアリングのフリッカーやシカゴの犯罪とグーグルマップを結びつけたものもある。ヤフーやグーグルは、遅ればせながら今回のWhere2.0会議で地図アプリケーションの開発者用



アマゾン「A9」のウディ・マンバー氏



グーグルマップ・キーホールのプロダクトマネジャーであるジョン・ハンク氏

ツールAPI公開を発表したが、ハッカーたちはそれを待たずしてこうしたアイデアをすでに実現していたわけだ。グーグルマップは、他の情報との統合が簡易だとされている。

昨年末の大統領選挙時に話題を呼んだ「ファンドレース」というサイトも、ロケーションテクノロジーの新しい使い方を示唆する。これは、公開情報として得られる政治資金寄付者の名前、住所、金額を地図上に視覚化したもの。近所で誰が寄付をしたとか、マンハッタンでも地価の高い北東側には共和党に寄付した住民が多いといったことがわかる。地図という文脈を重ねることで情報に深みとこれまでになかった意味合いが生まれる。

## アマゾンのA9は次世代の検索を模索

アマゾンの検索エンジンA9は、現在開発中のビジュアルイエローページを公開した。全米の主要都市の道路から見える店先の風景をデジタルカメラに収め、住所データとシンクロナイズさせる。今後、ユーザーが店を検索した際にはその店頭の姿がわかるだけでなく、地図上のポイントをクリックするだけで路上から見たその町のクローズアップを見ることができるようになるわけだ。A9はさらにここに店主らが自分たちで写真をアップロードできる仕組みなどを加える予定だという。

A9のCEOであるウディ・マンバーは、「検索をさらに向上させるとどうなるのかを探求した結果だ」とこれを説明し、アマゾンのオークションとの直接的な相乗ビジネス効果より、もっと大きな視野を念頭に置いていると語る。GPS搭載のSUVの上にデジタルカメラを載せ、これまでに10都市で2,000万枚以上の写真撮影を完了した。

## 分散する情報をまとめるのが位置情報サービス

Where2.0ではほかに、グーグル、マイクロソフトネットワーク(MSN)、ヤフーの地図やローカル情報開発者、オンデマンドの自動車共有サービスを運営するZipcar 主宰者、数千人のユーザーがスタッフや講演者とインターネットで同時にコミュニケーションできるロケーションベースのバーチャル市民集会のツールを開発した政治活動家グループ MoveOn などが

壇上に立ち、それぞれのコンセプトをプレゼンテーションした。

ロケーションテクノロジーの研究を行うベンタナナリサーチのマーク・スミスは、インターネット上の情報は今後ますます分散化されると予想する。「地図上でただカフェの位置がわかったからと言って役には立たない。位置情報にどうインテリジェンスやサービスを重ねていくかが勝負になる」。そのためには、各社が開発ツールのAPIを最大限オープンにしていくことが決め手になるという。

The image contains three screenshots of web services. The top screenshot shows the A9 search engine results for 'Stanford University' in Palo Alto, CA, displaying search results and a map of the area. The middle screenshot shows a housing map of California with various property listings and a map view. The bottom screenshot shows the Fundrace 2004 City Maps for New York, displaying a map of Manhattan with colored circles representing political contributions from Democrats and Republicans.

www.a9.com で調べたカリフォルニア州パロアルトにあるスタンフォード大学についての情報

www.housingmap.com で調べたカリフォルニア州パロアルト周辺の不動産情報

www.fundrace.org で調べたマンハッタン住民の両党への寄付金の規模のプロット地図。地価の高い北東側は共和党が多いことがわかる



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)